

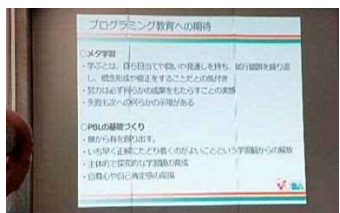
文教厚生委員会 研修レポート

研修テーマ（埼玉県）11月14日から16日
 ① 地域包括ケアシステム（和光市）
 ② 地域包括ケアシステム（和光市・社会福祉協議会）
 ③ プログラミング教育（戸田市）

① 地域包括ケアシステム
 和光市の地域包括ケアシステムは全国的に最も先進的と言われています。その中心的な、介護保険事業について「保険者である市町村が、いかに保険者としての役割を發揮するか」を考えることが重要であり、その本質はニーズ調査の重視、ケア会議の充実にあるとの指摘がありました。ニーズ調査では、アンケートだけでなく、訪問による聞き取り調査と合わせて計画を作ること、きめ細かな無駄のないサービス提供ができることなどの説明を受けました。

③ プログラミング教育

プログラミング教育は、再来年度から小・中学校で導入されるもので、戸田市は先行実施しています。戸田市では、教育委員会主導で、産官学民の連携に



戸田市教育長の説明用資料
「プログラミング教育への期待」

この他、11月15日は和光市社会福祉協議会、埼玉県障害者交流センターで研修を行いました。

議会広報編集特別委員会 研修レポート

研修テーマ（長崎県）10月1日から2日
 広報・公聴に関する取り組みについて
 （時津町・長与町）



広報・公聴に関する取り組みについて

時津町では、定例会終了後から発行までのスケジュールが約1ヶ月と本町より早く発行されています。そのほかにも、一般質問の結果を追跡する「追跡レポート」や大きな事業を議員の視点で記事にした「議員レポート」などの特徴的な取り組みをされていました。



長与町では、一般質問ページにQRコードを掲載し深い内容をホームページなどから確認できる取り組みをされていました。今回訪問した2町とも、先進的な新しいことを取り入れていく姿勢がありました。本町でも、新年度に向けて、紙面の刷新に取り組み、より一層、町民の皆様にもまれる議会だよりを目指していきます。

① 地域包括ケアシステム

より小中一貫のカリキュラムを作り、教材を整備しています。小学校1〜3年生まではパソコンやロボット等の教材を使用しない方式で、小学校4年生からスクラッチ（学習用プログラミング言語）を使っています。教材は委員会がメニューを示し、学校が選択する方式で、民間との連携もあることから無償で提供される教材もあるとのことでした。

経済建設委員会 研修レポート

研修テーマ（千葉県）10月10日から12日
 ① 道の駅を発信基地とした取り組み（南房総市）
 ② スマート農業（クボタ）（千葉市）
 ③ ㈱テクノフレックス（町の誘致企業）（船橋市）



① 道の駅を発信基地とした取り組み

約20年前に建てられた、道の駅、「とみうら枇杷倶楽部」を訪ねました。副社長 加藤さんより、初年度から赤字を出さずに運営をしてきた話を聞きました。南房総市には、これと言った観光地はなく、枇杷倶楽部単独では集客力は知れています。地域全体を見て産業や農業を抱き込み旅行会社などに地域の特性を活かし、観光バスで多くの観光客に来てもらう誘致の営業をしています。

② スマート農業（クボタ）

幕張メッセでの「国際次世代農業EXPO」において、未来型農業機械等を見学しました。まず、クボタのスマート農業戦略についての講演会を聞き、農業機械の無人化が思った以上に進んでいることがわかりました。10年後の農業はAI等の電子機器の発展により自動化が進み、1人の農家が20〜30ヘクタールを耕作できます。町も自動化農業機械で作業ができる基盤整備が考えられます。

③ ㈱テクノフレックス（町の誘致企業）

町内にも事業所のある、水道管の継ぎ手の専門メーカーを視察しました。国内トップシェアで、半導体製造も手掛けています。毎年地元の高校から数名入社している企業です。

総務常任委員会 研修レポート

研修テーマ（兵庫県）10月15日から17日
 ① 公共交通網の整備 ※空き家バンク（上郡町）
 ② 人材育成事業 その他 新庁舎建設（朝来市）
 ③ 公共交通網再編計画実施後の状況・実績（宍粟市）

① 公共交通網の整備

上郡町では、もともと路線バス1社が、運行していましたが、周辺部集落の高齢化が進み交通空白地区をカバーするため、デマンドタクシー・コミュニティバスを導入し利用者数が増えたとおり、大津町でも参考になると考えられます。 ※その他 空き家バンク

② 人材育成事業

朝来市では、合併し面積も拡大になる中で、人口減少が止まらないことから、20歳から40歳代までをターゲットとした企業支援のセミナーなど「ASAGONG人材育成プロジェクト」に専門職員を配置して若い人たちの人口増加に力を入れています。 ※その他 新庁舎建設

③ 公共交通網再編計画実施後の状況・実績

宍粟市では、路線バス・コミュニティバスの利用着数が5年間で4割減少したため、コミュニティバスを廃止し、事業者を統一して交通空白地区を解消しました。幹線には大型バス・枝線には、ワゴン型を走らせています。

